

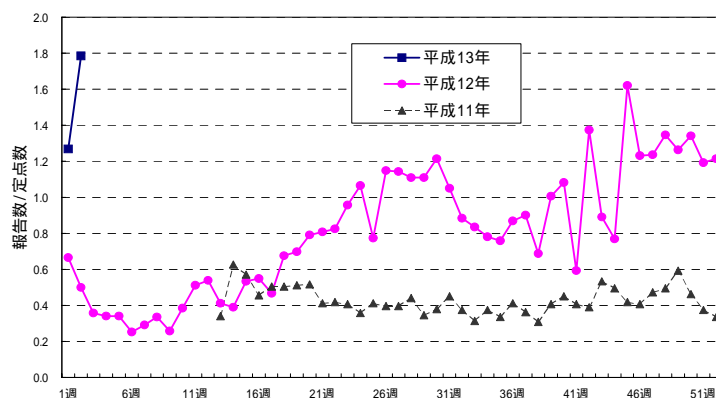
愛知県感染症情報

平成 13 年第 2 週（1 月第 2 週）

（コメント）

流行性耳下腺炎、水痘は流行しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎は、ピークは過ぎたようですが、依然流行していますので注意してください。



流行性耳下腺炎(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)

（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ ムンプスと感染性腸炎の目立つ週でした。
ムンプス 5歳男、12歳男はワクチン履歴あり。
（一宮市 あさのこどもクリニック）
- ・ 水痘流行中
（一宮市 後藤小児科医院）
- ・ インフルエンザA迅速反応（男3名，女4名）7名
インフルエンザB 9歳女2名
病原性大腸菌 0-116 48歳女
カンピロバクター2歳男
マイコプラズマ肺炎2名（2歳男，5歳男）
（尾西市 城後小児科）
- ・ 極度に少ないウイルス性胃腸炎少々、ムンプス、水痘少々あり、
インフルなし。リンゴ病（伝染性紅斑）出てきました。
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）
- ・ まだ下火とはいえ、感染性胃腸炎多いです。
1999、2000に比、インフルエンザは極めて少い。
（扶桑町 いずみ内科）

- ・ 水痘の流行続いています。インフルエンザ 2 名 (FluA+) ありましたが、まだ流行にいたっておりません。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- 尾張東部地区
 - ・ A 型インフルエンザ (2 歳女、東加茂郡在住) ありました。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
 - ・ インフルエンザの流行は全くありません。
流行性耳下腺炎散発。その他目立った感染症はありません。
年末に流行した嘔吐症は年が明けたら落ちつきました。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
 - ・ インフルエンザ散発
(南知多町 医療法人大岩医院)
 - ・ 伝染性紅班がみられました。感染性胃腸炎はやっと下火になってきました。
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ インフルエンザ A (FluA+) 少しずつ増加するもインフルエンザ流行なし。感冒性嘔吐症やや減少
(小牧市 小牧市民病院)
 - ・ 異型肺炎 1 歳女
(小牧市 鈴木小児科)
- 西三河地区
 - ・ ディレクティジェン FluA 陽性 (2 歳女、2 歳女) 2 例 A 型インフルエンザ
病原性大腸菌 (0-1 1 歳男、0-6 1 歳女、0-148 1 歳女)
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
 - ・ 水痘 増加
感染性胃腸炎増加 (大人も多い)
(豊田市 やふそ小児科)
 - ・ マイコプラズマ肺炎 9 歳
kaposi (カポジ) 水痘様皮膚炎 2 歳
(岡崎市 医療法人深田小児科)
 - ・ カンピロバクターと病原性大腸菌 0-1 6 歳女
(岡崎市 花田こどもクリニック)
 - ・ 病原性大腸菌 0-1 (+) 4 歳男、0-19 (+) 13 歳女いずれも VT1・VT2 (-)
カンピロバクター 10 歳男
(岡崎市 にいのみ小児科)

- ・ 乳児下痢症は減ってきました。
溶連菌感染症 STREP (+) 33 歳の男
(西尾市 やすい小児科)

- ・ 麻疹 (予防接種済み) 3 歳女
(西尾市 山岸クリニック)

- ・ 水痘、伝染性紅斑が流行しています。
(三好町 三好町立三好病院)

- 東三河地区

- ・ 水痘の流行している園があるようです。
(豊橋市 富田小児科)

- ・ 伝染性紅斑 31 歳 女 (子供より感染)
咽頭結膜熱の患児がいました。
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

(1 ~ 3 類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 2 名。

- ・ 豊川保健所から報告の 7 歳男。1/2 初診、1/4 診定。菌型は、
0-157 VT1・2 (+)

- ・ 岡崎保健所から報告の 5 歳女。1/12 初診、1/12 診定。菌型は、
0-26 VT1 (+)

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

発生はありません。

第 51 週 ~ 52 週 (平成 12 年 12 月 18 日 ~ 平成 12 年 12 月 31 日) の 4 類感染症の全国状況

水痘の定点当たり報告数が例年に比べかなり多くなっており、山形県で定点当たり報告数 7.0 、新潟県で 6.5 、青森県で 5.3 、長野県で 5.0 となっている。咽頭結膜熱は冬季としては例年になく定点当たり報告数が多くなっている)。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎と流行性耳

下腺炎の定点当たり報告数は、例年の同時期に比べやや多くなっている。麻疹は例年の同時期と比べ定点当たり報告数がかなり多く、とくに高知県、奈良県、大分県、鹿児島県などで定点当たり患者数が多くなっている。感染性胃腸炎は引き続き患者が増加しており、過去 10 年間で最大の流行となった 1999 年に次ぐ定点当たり報告数となっている。とくに定点当たり報告数が多くなっているのは大分県 (36.3)、鳥取県 (33.1) などである。インフルエンザの活動性はまだ低く、全国平均で定点当たり報告数 0.32 となっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋)

